

第3学年 美術科学習指導案

3年3組 男子22名 女子18名 計40名

指導者 萩原 至道

【授業】 9:35~10:25 会場は美術室 (3階)

【協議会】 10:40~11:50 会場は2年3組 (3階)

1 題材名 附属中グッズ化プロジェクト

2 題材について

(1) 題材観

本題材では、附属中学校をテーマに、より附属中学校が感じられるオリジナルのグッズを表現方法を工夫して制作する。本題材で扱うグッズとは、トートバッグやTシャツ、ハンカチである。元々は無地のトートバッグやTシャツ、ハンカチにシルクスクリーンによる技法を用いてオリジナルのプリントを施していく。グッズの制作は4人1グループ(デザインチーム)での制作とし、コンセプトの設定からグッズのデザイン案の検討、版の制作、そして印刷までを行う題材である。題材名にもある通り、「附属中のグッズ化」であるので、グッズを通して多くの人々に附属中学校とはどのような学校であるのかを伝えることを目的に、チームごとに「附属中は〇〇な学校」といった明確な考え(コンセプト)をもった上で、それに応じた絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素などを工夫して表現していく。何も無い中から物事を作り出すことは非常に難しいことであるが、附属中学校で3年間過ごしてきた3年生であるからこそ、これまでの経験などを通してそれぞれの附属中学校像というものを築きあげることのできる題材であると考え。それを如何にしてグッズのデザインへと昇華していくかが本題材のメインとなる部分であろう。ここでも、3年間で美術の授業で学んできた形や色彩、様々な技法などを選択して表現方法を考えていくことが必要となる。これまでの学習の集大成としてこの授業を進めていけると考える。

なお、本学習は学習指導要領の以下の指導項目にあたる。

(学習指導要領に関する内容) 第2学年及び第3学年

A表現(2)イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

(3)イ 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現すること。

B鑑賞(1)ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。

[共通事項](1)ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

(2) 生徒観

生徒は1年時には、オノマトペをテーマにした上履きズックのスケッチや自分の思いや考えを一文の絵文字で表す制作を通して、自分の感じたことや考えたことを基にイメージをもち、それを表すために大きさや配置といった構図、描くものの形、色彩、描画材料などを表現意図に合わせて工夫することが大切であると学んだ。また、モダンテクニックを用いた詩の制作では、偶然出来上がった形や模様、色彩などから感じられることを基に詩に表す活動を通して、形や色彩、材料などの様々な要素とそれらがもたらす感情の関連性について考えて制作することができた。2年次では名刺の制作を通して、相手に伝えたい自分が伝わる名刺のデザインにするために、伝えたい内容を明確にした上でそれに応じた文字や絵、形や色を工夫して表現することを学んだ。

美術の授業に意欲的に取り組む生徒は多く、楽しんで表現活動に取り組んだり、自分の考えをもって鑑賞活動をしたりする姿が見られる。しかし、自分の考えを曖昧にしたまま目標もなく、ただなんとなく作品を作る生徒や鑑賞では作品のよさや美しさについて深く考えずに終える生徒も見られる。本題材では、附属中グッズ制作を通して、多くの人々に附属中学校とはどのような学校であるか、いかに美しく、分かりやすく伝えるかを考えていく。何を伝えるのか目的を明確にすること、その目的を達成するためにどのような工夫によって表現していくのか明確な考えをもつことなど、発想や構想の段階を充実して授業を進めていきたい。

(3) 指導観

本題材においては、多くの人々に附属中学校とはどのような学校であるか伝えるために、伝えたい附属中の姿を明確にし、それに応じて絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素などの効果的な表現方法を考える活動を個人、グループで随時取り入れていきたい。まず、伝えたい附属中学校の姿を明確にしていくために、イメージマップやピラミッド・チャートなどシンキングツールを使い、附属中から考えられる様々な要素から、「これが附属中だ」と見いだせるようなワークシートの内容を考えていきたい。そして、伝えたい附属中の姿を多くの人々に伝わるグッズにするために、絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素などをどう工夫すればよいか、それはどのような理由なのかを明確にし、目的と表現の工夫が一致するように考えさせたい。また、本題材は4人1グループ（デザインチーム）で活動していく。チームの決め方は、個人でコンセプトを考え、その考えが似たメンバーが集まって編成する。似たコンセプトの中でもいろいろな価値観があり、チームでのミーティングの中でよりコンセプトの明確化につながっていくと考える。発想・構想の段階では、ポスターセッションという発表の場を設けることで、曖昧になりがちな作品の目的に対する工夫などを、発表しなければならないという動機付けをすることで明確にもてるように考えた。また、ポスターセッションという発表の形式は、発表者と聞き手の距離が近くなり、気軽に質問や意見交換をすることができる。このやりとりを通して、生徒同士で様々な価値観に触れるなどして考えを深め、よりコンセプトとデザイン案が整合した作品制作につながるようにさせたい。気付いたことや考えたことをワークシートに記述させることで、生徒自らの考えをまとめさせ、振り返らせるとともに、教師が生徒の思考の質を見取ることにもつなげていきたい。

制作の段階では発想・構想の段階で決定したデザイン案を基にシルクスクリーンの版を制作していく。製版の方法はブロッキング法を用いる。枠の大きさや使用できる色には制限があるため、限られた中でいかに表したいことを効果的に表していくか、チームで材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現するようにさせたい。

3 題材の目標

- 附属中の姿などの伝えたい内容を多くの人々に分かりやすさや美しさを考えて表現することに関心を持ち、主体的に構想を練っている。(表現)
- 附属中の姿やグッズのデザインとして調和のとれた洗練された美しさ、作品全体のイメージ、つくり手の意図や願いなどに関心を持ち、主体的によさや美しさを感じ取っている。(鑑賞)
【美術への関心・意欲・態度】
- ◎ 附属中の姿などの伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を考え、コンセプトとグッズのデザインが整合した、分かりやすく、美しい表現の構想を練ることができる。
【発想や構想の能力】
- 伝えたい内容を効果的に伝えるために、材料や表現方法の特性を生かし、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現することができる。
【創造的な技能】
- 附属中の姿やグッズのデザインとして調和のとれた洗練された美しさ、作品全体のイメージ、つくり手の意図や願いなどを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。
【鑑賞の能力】

4 全体計画 (全 1 1 時間)

次	学習活動	評価規準 [共通事項]	配時
1	○作品 (商品) の鑑賞をする ・市販されている商品の鑑賞を通して、描かれているものを根拠によさや美しさを捉える	・造形的なよさや美しさ、調和のとれた洗練された美しさ、作品全体のイメージ、つくり手の意図や願いなどを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。 【鑑賞の能力】 (ワークシート)	1
2	○個人でグッズのコンセプトを考える ・シンキングツールを利用して伝えたい附属中の姿について考える。 ○個人のコンセプトを基にチームを編成する。 ○チームのグッズのコンセプトをまとめる ・個人のコンセプトからチームのコンセプトにまとめていく ○チームのコンセプトから附属中グッズのデザインを考える	・附属中の姿などの伝えたい内容を多くの人々に分かりやすさや美しさを考えて表現することに感心を持ち、主体的に構想を練ろうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】 (ワークシート) ・ <u>附属中の姿などの伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素などの効果を考え、コンセプトとグッズのデザインが整合した、分かりやすく、美しい表現の構想を練ることができる。</u> 【発想や構想の能力】 (ワークシート)	3

3	<p>○ポスターセッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッションを通して、伝えたいことを効果的に表すために必要な工夫について考える ○ポスターセッションを受けて制作するグッズのデザインの確定やデザインの修正をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>附属中の姿などの伝えたい内容をより効果的に表すために、絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素などの必要な工夫について考え、構想を練ることができる。</u> 【発想や構想の能力】 (ワークシート) 	3 (本時1/3)
4	<p>○下絵を基にシルクスクリーンの版を制作する</p> <p>○版をグッズに印刷する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や表現方法の特性を生かし、順序を考えて制作する 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>伝えたい内容を効果的に伝えるために、材料や表現方法の特性を生かし、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現することができる。</u> 【創造的な技能】 (制作の様子、ワークシート、作品) 	3
5	<p>○各チームのグッズの鑑賞をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各チームの作品を鑑賞し、美しく、分かりやすい表現や工夫を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・附属中の姿やグッズのデザインとして調和のとれた洗練された美しさ、作品全体のイメージ、つくり手の意図や願いなどに関心を持ち、主体的によさや美しさを感じ取ろうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】 (ワークシート) ・<u>附属中の姿やグッズのデザインとして調和のとれた洗練された美しさ、作品全体のイメージ、つくり手の意図や願いなどを感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。</u> 【鑑賞の能力】 (ワークシート) 	1

5 本時の学習（全5／11時間）

(1) 目標

ポスターセッションを通して、附属中の姿などの伝えたい内容を効果的に表すために必要な工夫について考え、互いにアイデアを練り上げるようにさせる。

(2) 本単元で身に付けさせたい教科固有の思考力

○ 伝えたいことが伝わる表現にするにするためには、何を、どんな効果をねらって、どう工夫するか明確にして構成をまとめる力

(3) 取り上げる言語活動

ポスターセッションを通じた質問・意見交換 話し合い

(4) 期待される言語活動の有効性

本時の学習では、ポスターセッションを通して、伝えたいことを多くの人々に伝えるために、

効果的に表すためにどのような工夫が必要か検討し、互いに共通に感じる形や色彩などの印象や感情効果を考えてグッズのデザイン案を見直していく。ポスターセッションでは、各チームのコンセプトとそれを表現するためのグッズのデザインの工夫についての説明を受け、質問や意見交換をする。各チームのグッズのデザインのよさやコンセプトを表すためにもっと工夫すべきところなど探っていく中で、コンセプトと絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素などの効果との関連性に気付き、伝えたいことが伝わる表現にするためには、何を、どんな効果をねらって、どう工夫する必要があるか明確にして構成をまとめることにつながっていくと考える。

(5) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい附属中の姿（コンセプト）が伝わる附属中グッズのデザインをするために、必要な要素（絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素など）について確認する。
<p>コンセプトが伝わってくるグッズのデザインはこれだ！</p>	
<p>2 ポスターセッション1を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いろいろな場で活躍する附属中」を表すために、中心から外へ放射状に飛び出していく矢印を描いたのはコンセプトが分かりやすい 「いろいろな個性をもちつつもまとまりのある附属中」をリピテーションを使って表すことで変化がある中にもまとまりがあってコンセプトに合っている 「個性豊かな附属中」を表すためにいろいろな色を使うのはいいと思うが、純色に限定したほうが賑やかさを強く感じさせられると思う 真ん中にイラストを一つだけ描いたのは注目されるが寂しい感じもするので大きさはもっと大きく、色を明るい感じにしてみてもどうか 	<ul style="list-style-type: none"> 5チームが発表側となり、それぞれのチームのコンセプトとその設定理由やチームの思い、デザイン案について説明する。残りの5チームが聞き手となって自由に発表を聞きに行き、質問や意見交換をする。 聞き手は各チームのそれぞれのデザイン案の中で一番コンセプトが伝わってくるものに付箋で投票する。また、アドバイスがあれば付箋に記入してポスターに貼り付ける。 ポスターセッションで聞き手が考えることや見る視点についていつでも確認できるようにする。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">言語活動を通じた見取り</p> <p>おおむね満足 (B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各チームのコンセプトと絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素から感じられるイメージとの関連性を考え、コンセプトが伝わる表現の工夫についてまとめることができる。 <p>指導の手立て (C)</p> <p>各チームのコンセプトを表すための工夫について、そのよさや改善点が分からない生徒に</p>

<p>3 ポスターセッション2を行う。</p> <p>4 ポスターセッションを受けて、チームで制作するグッズのデザインの確定やデザインの修正をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・純色を使った鮮やかな配色の方が「活発な部活動」を表す上で多くの人に受け入れられていたので、配色はこのままでいこう ・コンセプトとデザインの整合が弱く、コンセプトが理解されにくかったので、それぞれのデザインの要素で考えなおそう <p>5 本時のまとめをし、次時の学習内容を確認する。</p>	<p>は、絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素から感じられるイメージとの関連性を、参考資料を示しながら考えさせ、コンセプトに応じた効果をもつ工夫に気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表側と聞き手側が交代し、ポスターセッションをする。 ・ポスターセッションを受けて自分達のチームのデザイン案を見直し、もらった付箋や質問、意見について話し合い、グッズのデザインの確定やよりコンセプトが伝わるようデザインを修正する。 <p>学習評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●附属中の姿などの伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素などの効果を考え、コンセプトとグッズのデザインが整合した、分かりやすく、美しい表現の構想を練ることができる。 <p style="text-align: right;">【発想や構想の能力】 (ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの話合いで、コンセプトが伝わるグッズのデザインにするためにデザインの検討や修正を行ったチームを把握しておき、話合いの内容を発表させる。 ・生徒がデザイン案を全体に提示しながら発表できるよう、実物投影機を用意しておく。
---	--

6 授業観察の視点

- ・ 絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素から感じられるイメージが分かる資料を用意したことは、生徒がグッズのデザインに必要な要素を視点に工夫点を考える上で効果的であったか。